

〈技術資料〉

家具・楽器・建材等の塗装から見える塗装設計の相違

大隅 豊康

1. はじめに

天然資源の木材は、生活空間に豊かさと潤いを感じさせる。家具、楽器、建材は、日常生活の中で、身近に目に触れ、使われ、心を和ましてしてくれる。木材塗装は、その製品の付加価値を高めるために様々な塗装をしているが、それには必ず塗装する目的がある。代表的な塗装仕上げを取り上げ、目的を工程別に細分化して塗装設計の相違を述べる。

2. 用途別分類

木材の塗装製品は使用する場所でその設計が大きく変わる。屋内品はインテリア品や楽器など、美の感性などの視覚面や安らぎの心を演出する。屋外品は、木造建築物などの厳しい自然環境に暴露されるために木材の保護や機能性を主目的としている。

2.1 屋内品

楽器 ピアノ・ギター・電気ギター・木管楽器・電子楽器等

家具 箱物家具：収納家具・タンス・食器棚・鏡台

脚物家具：ダイニングテーブル・椅子・

机・ベッド等

建材 フローリング・階段・壁・ドア・造作材・住宅設備：キッチン扉・収納棚等

2.2 屋外品

建築 外装・玄関ドア・玄関ポーチ
他：遊具・ベンチ・標識等

3. 塗装の目的の明確化

塗装とは、“流動性を持つ液体の塗料を薄く塗り広げ、固化させ、付加価値のある塗膜を形成すること”である。“塗装すること”で最も重要なことは、塗装の目的を明確にしているかどうかである。これは、商品企画、塗装の工程を設計する段階、塗装作業時、塗膜性能評価、さらに製品の品質検査をする時など、あらゆる場面で目的を認識する必要がある。その目的とは①美観を得ること②製品の保護③塗膜の機能性付与の3つである。それぞれの役割を認識し相互のバランスが塗装の目的を確実に達成させるために重要である。さらに、シックハウス対策、地球環境保全の観点から、塗料から発生するVOC（揮発性有機化合物）の削減、ゼロ化に努めなければならない。

3.1 塗装の目的

3.1.1 美観を得ること

被塗物である木材が持つ美しさを塗装によって引き出すことである。塗装仕上げの外観評価は感覚的な表現が使われ、その項目は色合い、